

平成22年度 第3回CCC国際関係学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 : 平成23年3月23日(水) 午前10時から午後12時

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者: 林委員 多賀委員

(事務局) 井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

事務局から学士力実現に必要な ICT 活用の授業モデル案について検討することの説明及び他の委員会の状況などの検討状況の説明がなされた。

検討の視点は

(1) 学士力実現に必要な授業モデルを検討する。

- ・ 学士力は大学4年間で身に付ける力として考え、世の中の動向を踏まえて5年先を見据えた授業モデル案を検討する。
- ・ 一市民として、自己、社会との関連付けをしながら学士力を身に付け、社会で通用する力を付けさせる授業モデルを検討する。
- ・ 世界的な背景はネットを通じて世界の大学で学ぶ(メガバーシティ)の動きである。日本が今後をどう切り開いていくか(in to the unknown: : エコノミスト 2010/10)が課題となる。
- ・ 新しい学習指導要領「探求的学習・共同的な学習」は高校では一部取り入れられているが、今後中学校から学習することで変わってくる。
- ・ リベラルアーツをしっかりとやって専門に進めることができることが今後は必要になる。

(2) 学びを身に付けさせる授業モデルを検討する。

- ・ 技能・テクニックでなく、情報をどう読み取り、考える力を付けるかが大事である。
- ・ 単位の取得でなく、教養と専門を融合させた本質的な学びによる幅の広い人材育成を目指すべきである。
- ・ 未知の時代へ向った学びでは、学生に主体性をもたせ、社会の一市民として関与するステージでの学びを描くべきである。しっかりした基礎を身に付け、グループで協調する中で自律して学ばせる。その成果を社会・世界に発信させるような授業デザインを検討する。
- ・ 一人の教員から教わる学習だけでなく、世界中の学識ある人から教わり、生涯学習につなげる。
- ・ 振り返りの学習プロセス、発表・プレゼンを通じた学習成果を大学間、教員間でチーム(アウトカム)を作り、の社会への発信、ファシリテータの活用等、学士

力実現に必要な ICT 活用の授業モデルを検討する。

(3) 委員が作成した授業モデル案について

①到達目標 1 について

- ・国際関係の基本的な仕組みを理解するためには、日常生活との関連付けが重要でありグループで自己との関連付けの中で構造に対する理解を議論し、定着させていく。
- ・授業中に BBS、twitter を活用し、学生の反応をみながら学習する。
- ・LMS などを活用し、グループ同士で進捗状況を知ることで学びを深める。
- ・授業計画には具体的なテーマを出さず、シラバスのようなものは裏側のイメージとし、あくまで、対面学習を中心に、ICT 活用は LMS やポートフォリオ、ネットを取り入れたグループ学習など、対面学習を裏で支える利用のイメージとする。
- ・視点は良いので、授業デザインとして今後まとめていく

②到達目標 3 について

本日お話しいただいた早稲田大学での先進的取り組みや、島根大学での事例、世界的な動向などを踏まえて検討いただく。

(国際ロールプレイ、メガバーシティ、HVC サイバースクールバス)

2. 次回までの宿題

各委員が授業モデル案を作成する。

到達目標 1. 次回までに検討する。

到達目標 3. 次回までに検討する。

3. 次回の開催日程

日時：平成 23 年 4 月 11 日(月)～4 月 15 日(金) メーリングリストにて調整

場所：早稲田大学 会議室